

私は生まれて数日で、ある仏教系新宗教の信者になった。むろん自分の意志ではない。母が熱心な信者だったのだ。教団において子どもの誕生は、信者がひとり増えることを意味する。子どもを信者にしなければ、その子の福運が逃げてしまうのだ。母も子の幸せを祈って、入信届に私の名を書いたと思う。

そんなわけで物心ついた時には母と並んで仏壇に向かい、読経しながら小さな手を合わせていた。母によれば正しい宗教は教団だけで、ほかは邪教なのだという。世の中のすべての人が私たちと同じものを信じれば、世界は平和になるらしい。それならば忙しく立ち回る母は、正義の人だ。早朝から教団の発行する新聞の配達をし、昼間は折伏や支援政党の活動、そして夜は教団の会合とほとんど家にいなくても、さびしがつてはいけない。善きことをなす人を困らせたら、私は悪人となってしまう。

しかし悪人の代表が、実は家の中にいた。父だ。父は教団を信じることに大反対で、いわく、教義は矛盾している、金がかかる、時間泥棒だ、等々。教団が掲げる世界平和や自他の幸福といった目標は、万人が求めるものではないのか。なぜ父は反対するのか。しかも父はこんな講釈を、泥酔しながら垂れるのだ。とても理があるとは思えない。幼い私は訳もわからず、宗教を境として決裂した両親を前に、ただ惑う

宗教のある家に 生まれて

菊池
KIKUCHI
Mariko
真理子

しかなかった。

けれど成長して世間を知るにつれ、父の言い分も理解できるようになっていく。一方で信心深い母は、活動に追われて疲れ果て、夫婦仲にも絶望し、一日中泣いていた。どちらが正しいのか、ますますわからない。家の中は、陽の射す場所がないように暗かった。その暗さに直面しないよう、なんとかやり過ごしていた私が十四歳になったある日、母は突然自死を選び、二度と帰らぬ人となった。

市井の人である母は、単純に幸せになりたくて、信仰を求めたのだろう。けれど母にとって、私たちが家族にとっても、宗教は幸せどころか災いの種でしかなかった。母が亡くなったと同時に、私も信仰を捨てた。それでも刷り込まれた教えはもはや血肉のようで、長く私を苦しめた。

もし父も信心して家庭が円満だったら、私はそのまま信者でいたのだろうか。ここでは教団の教えやあり方には触れないが、様々な宗教を信じる親を持つ子どもを取材した漫画を描き、多くの声を聞いた今となっては、やはり私も苦悩することになっただろうと感じている。

安倍元首相の銃撃事件以降、「宗教二世」という名称を得た人たちが、実に多くの苦しみの声を発信し始めた。個々の宗教特有の問題も多い

が、親からの愛情が「信仰しているから愛してあげる」という条件つきだったことや、何を成し遂げて「祈ったおかげ」と努力を認めてもらえなかったことには、皆が共通して嘆息する。親が自分に向き合っている実感を持ってないまま生きることは、ほとんど体が痛んでいるのと同じだ。どんなに目を背けようとしても、ズキズキとその存在を示す。

さらに、大多数の人が自分は無宗教だと言うこの日本では、宗教に則った生き方はどうしたって特異だ。自分で選択したわけではないルールを強制される息苦しさは、新宗教だけでなく、伝統宗教の二世からも漏れている。「宗教二世問題は、うちには無関係」という態度の伝統宗教も多いが、そうではないのだ。「信じない自由」がなかった子どもが何を感じていたのか、きちんと目を向けてほしい。

そもそも二世信者とは、宗教団体にとってどのような存在なのだろう。少なくとも私は、教えに心打たれたこともなければ、読んでいたお経の意味も知らない。私の信仰は、母との付き合いでしかなかったのだ。もしかしたら多くの二世も似たようなものかもしれない。親が体験した回心かぶしんを、子どもは経ていないのだ。そんな信者は教団にとって、ただの頭数とは違うのか。

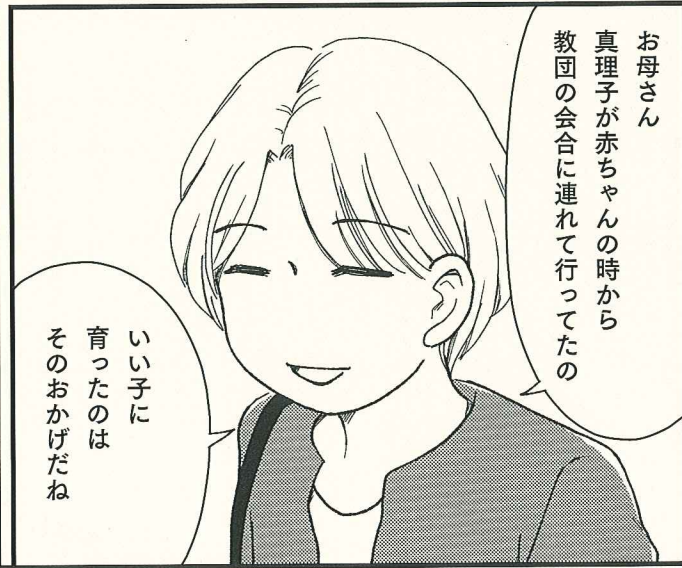
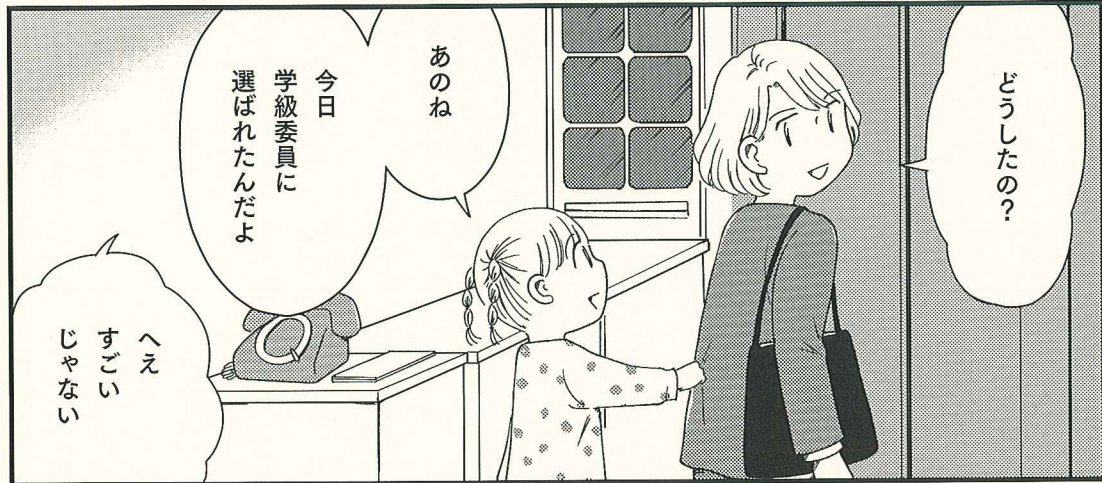
二世の仲間と話すのは、どんな宗教であって

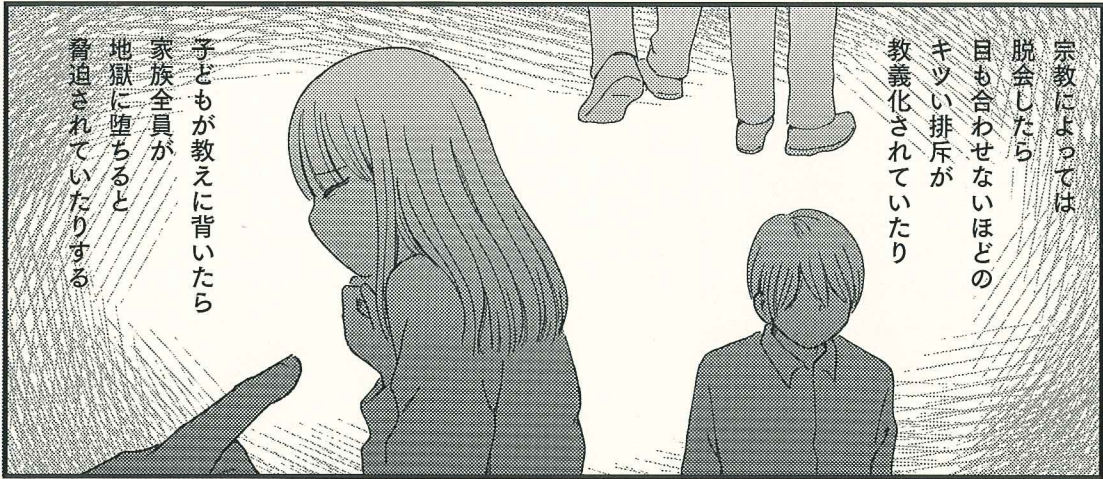
も、親が子どもの人生を決めるようなことをしてほしくないということだ。どんな生き方をしても、どんな人間になるかは、自分で決めさせてほしい。家族が宗教をもっている家に生まれたことで、ハンデを負ったような思いをする子どもを、これ以上増やしたくない。真つ当な宗教団体なら、耳を傾けてくれるだろう。

十年前、大企業に勤めていた友人が、突如、会社を辞めて政治の道を目指すと言った。即座に、彼ならクリーンな政治家になると思った。なぜなら彼は真剣な信仰をもっている。私はどんな神仏も信じていないし、カルトによる洗脳は別枠だが、善い人間になることを神仏に誓った人のことは信じているのだ。

(さくち まりこ・漫画家)

著書に、『神様』のいる家で育ちました〜宗教二世な私たち〜(文藝春秋、二〇二二)など。





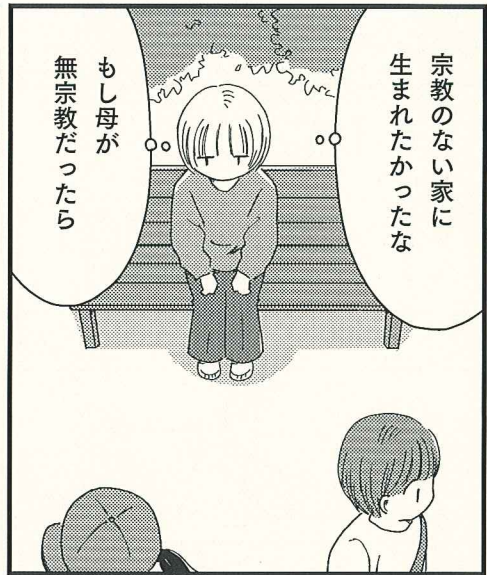
宗教によっては
脱会したら
目も合わせないほどの
キツイ排斥が
教義化されていたり

子どもが教えに背いたら
家族全員が
地獄に堕ちると
脅迫されていたりする



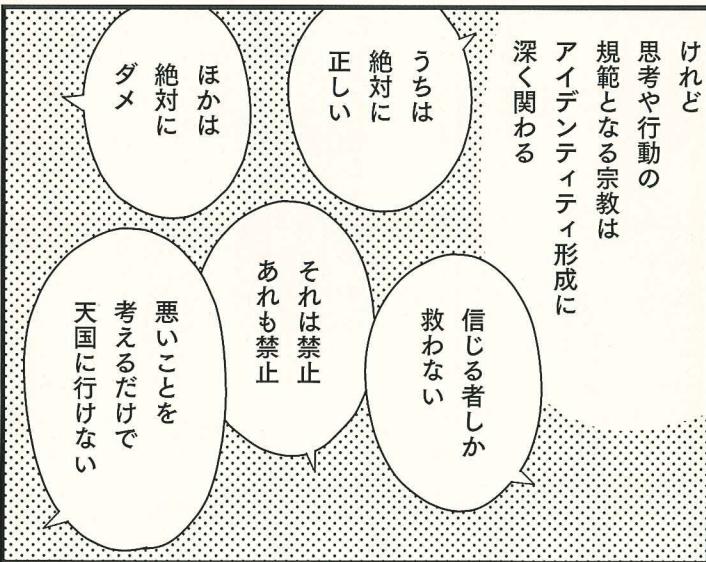
全く想像
できない

どんな人
だったんだろう



宗教のない家に
生まれたかったな

もし母が
無宗教だったら



けれど
思考や行動の
規範となる宗教は
アイデンティティ形成に
深く関わる

うちは
絶対に
正しい

ほかは
絶対に
ダメ

信じる者しか
救わない

それは禁止
あれも禁止

悪いことを
考えるだけで
天国に行けない



そして私も
もし二世じゃ
なかったら…

もちろん
人生に影響を及ぼすのは
宗教だけじゃない

